

## 旧城下町の景観形成に向けた街路シークエンス景観の分析に基づく重点エリアの抽出

Extracting of Important Area Based on Analysis of Sequential Streetscape for Landscape Planning of Old Castle Town

上田 萌子\* 大平 和弘\* 藤本 真里\*\* 田原 直樹\*\* 赤澤 宏樹\*\*

Moeko UEDA Kazuhiro OHIRA Mari FUJIMOTO Naoki TAHARA Hiroki AKAZAWA

**Abstract:** It is important to analyze streetscape because the street becomes the place where the pedestrian experience townscape. In this study, we investigated how to see landscape resources on typical streets by focusing on sequential landscape in the old castle town in Sanda City, Hyogo. We took pictures of the streetscape every 15m, and grasped having landscape resources or not in the photograph. Based on this result, we extracted typical scene landscapes on the streets, and specified 13 important areas where landscape resources are seen characteristically by analysis of sequentiality of scene landscape and road shape. In important areas, road shape such as a curve or a slope affected how to see landscape resources, and created characteristic sequential landscape. It is suggested that extracting of important areas enables showing the place where should be worked on landscape planning as priority, and the basis of guidelines for landscape planning of old castle town.

**Keywords:** *streetscape, scene landscape, sequential landscape, landscape resource, landscape planning, old castle town*

キーワード：街路景観，シーン景観，シークエンス景観，景観資源，景観計画，旧城下町

### 1. はじめに

近年、地域の景観をよりよくする機運が高まり、身近な景観資源を定めて保全・活用する動きが各地で進みつつある<sup>1)</sup>。景観重要建造物や景観重要樹木の指定といった単体の資源そのものの価値に立脚した景観形成も活発化しており<sup>2)</sup>、平面的な景観資源の存在状況をもとにした重点地区の指定なども行われている<sup>3)</sup>。一方、歩行空間を重視した都市づくりの必要性が求められていることから、歩行者の視点に立ち、景観資源の街路からの見え方の変化に着目した景観整備の必要性も指摘されている<sup>4)</sup>。

歩行者の視点に立った景観形成を検討する上では、景観のシークエンスの分析が有効であり、街路からの山並み眺望景観をシークエンスの観点から分析した研究<sup>4)</sup>、回遊式庭園の園路からのシークエンス景観を扱った研究<sup>5)</sup>、史跡の主要動線におけるシークエンス景観の特徴を明らかにした研究<sup>6)</sup>などがみられる。また、シークエンス景観をシーン景観と関連づけて参道空間の景観変化を捉えた研究<sup>7)</sup>もある。しかし、街路空間での複数の景観資源のシークエンス的な見え方に着目して、特定地域の景観形成における重点エリアまでを検討した研究は不足している。ここで挙げる重点エリアとは、地域の景観の特徴を強く示している場所を指す。重点エリアを抽出することで、景観形成に優先的に取り組むべき空間と景観形成の方針を提示することができると考えられる。

そこで本研究では、旧城下町である市内中心部で景観資源を活かした景観形成が検討されている兵庫県三田市を事例に、複数の景観資源の街路からの視認状況をもとにした、景観形成における重点エリアの抽出方法の有効性を検討することを目的とした。

### 2. 研究方法

#### (1) 対象地の概要と地域区分

兵庫県三田市では、景観法に基づく既成市街地の景観計画が策定され<sup>8)</sup>、地域の資源を活かした景観づくりが進められつつある。三田市中心部の旧城下町である三田地区は、近世に三田藩の拠点

として発展し、城や上級武士の居住地(家中侍屋敷)、寺町を含む町人の居住地(町屋)が築かれた。この当時の町割りが現在の町割りの基盤となり、景観の骨格を形成している。本研究では、三田地区内の近世より町割りに変化が少ない住居地域および住商混在地域を対象地として設定し、「屋敷地域」「町屋地域」「寺町地域」の3つに区分した(図-1)。

#### (2) 景観形成における重点エリアの抽出プロセス

景観形成における重点エリアの抽出プロセスを図-2に示した。まず、調査対象とする景観資源を設定し、その分布状況と地域区分から調査対象路線を選定した。次に、対象路線において一定間隔で写真を撮影し、シーン景観を抽出した。抽出したシーンごとに景観資源の視認状況を確認するとともに、視認状況に影響を与えると考えられる道路特性も把握した。続いて、シーンで捉えた際に視認しやすい景観資源を把握するため、景観資源のタイプ別に構成割合を平面とシーンで比較した。景観資源の視認される傾向をもとに、景観資源タイプの組合せからシーン景観のタイプを分類した。次に、路線毎のシーンタイプの構成割合から、各路線での主体となるシーンタイプを設定し、そのタイプが出現する傾向から路線毎の重点エリアを抽出した。最後に、重点エリアのシークエンス景観の特徴を把握した。

### 3. 抽出プロセス毎の方法と結果

図-2に示した抽出プロセスごとに、方法および結果の詳細を説明する。

#### (1) 景観資源の設定

本研究では、同地区で実施された先行研究<sup>9)</sup>において抽出された計22種の景観資源のうち、歩行者の視認に直接影響を与えにくいと考えられる「拠点施設」や「公共施設」を除くとともに、同質的な種類を9種に集約し、調査対象に設定した(表-1)。

#### (2) 対象路線の設定

設定した景観資源の分布状況と地域区分をふまえ、景観資源の

\*兵庫県立人と自然の博物館

\*\*兵庫県立大学自然・環境科学研究所

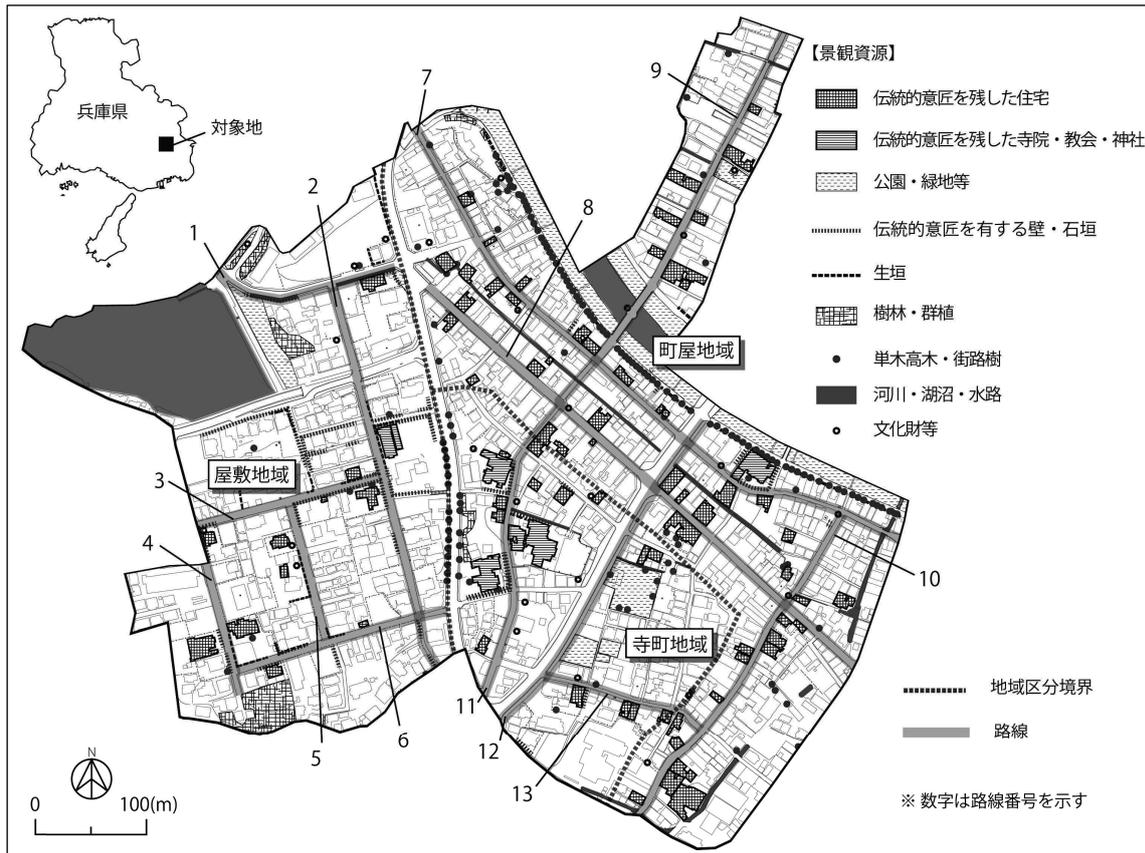


図-1 対象地の地域区分と対象路線

視認状況を調査する対象として図-1に示す13路線を設定した。このうち、路線①および⑫は道路の両側に歩道があるが、後述するシーン景観の解析で景観資源の視認状況に大きな変化が見られなかったことから、片側の歩道を対象路線とした。また、路線⑨および⑩はそれぞれ町屋地域と寺町地域に位置しているが、本研究では他の道路との結節点を路線の起点とみなし、路線⑧との交差点でそれぞれの路線を区切った。

(3) シーン景観の解析

1) シーンの抽出

対象とした路線において、道路中央部にて15m間隔で進行方向とその逆方向の写真を撮影した。歩道のある路線では、歩道の中央部で同様に撮影を行った。撮影地点には、北あるいは西方向から順に番号をふり、北から南方向あるいは西から東方向をa方

向、その逆向きをb方向とした。撮影には一般的に人間の視野に近いといわれる焦点距離35mmのカメラを使用し、画面サイズは4:3に固定した。また、撮影時はカメラを三脚で視高150cmに設定した。以上の工程により、274地点で548件のシーンが抽出された。

2) 道路特性と景観資源の視認状況の把握

まず、写真を撮影した地点の道路特性(幅員、勾配、線形)を把握した。道路幅員は、8m以上、6m以上~8m未満、4m以上~6m未満、4m未満の4つに分類し、三田市の道路台帳より確認した。道路勾配については、4%以下の場合にほとんど平坦に見えることから<sup>10)</sup>、2500分の1地形図をもとに、5%以上の場合に勾配有りとした。道路線形については、人間の視覚で建物1軒1軒をよく識別できる距離が30mとあることから<sup>11)</sup>、変曲点を起点に前後30m先が見通せない範囲を曲線区間に設定した。次に、撮影したシーンごとに9種の景観資源の視認の有無を読み取った。



図-2 重点エリアの抽出プロセス

表-1 景観資源の設定

本研究における景観資源	先行研究における景観資源との対応関係
伝統的な意匠を残した住宅	「伝統的な意匠を良く残した建物」および「伝統的な意匠を残した建物」のうち、住宅に該当するもの
伝統的な意匠を残した寺院・教会・神社	「伝統的な意匠を良く残した建物」および「伝統的な意匠を残した建物」のうち、寺院・教会・神社に該当するもの
伝統的な意匠を有する壁・石垣	「伝統的な意匠を有する壁」、「石垣」
生垣	「生垣」
単木高木・街路樹	「単木高木」、「街路樹」
樹林・群植	「樹林・群植」
公園・緑地等	「公園等」、「生産緑地等」、「法面・河川敷」
河川・湖沼・水路	「河川・湖沼」、「水路」
文化財等	「井戸・井戸跡」、「石碑・道標等」、「地藏・祠」、「地車格納庫」、「橋」

表-2 景観資源の平面的な構成割合とシーン景観での構成割合

景観資源タイプ	景観資源	平面		シーン	
		資源数	構成割合 (%)	シーン数	構成割合 (%)
A 建物	伝統的意匠を残した住宅	79	32	196	37
	伝統的意匠を残した寺院・教会・神社	6		35	
B 敷地	伝統的意匠を有する壁・石垣	39	20	107	27
	生垣	15		63	
C 樹木	単木高木・街路樹	66	28	91	26
	樹林・郡植	8		72	
D その他	公園・緑地等	9	20	23	9
	河川・湖沼・水路	11		5	
	文化財等	32		27	

表-3 シーン景観のタイプ

		景観資源タイプ			
		A	B	C	D
シーンタイプ	I	●	●	●	△
	II	●	どちらか●		△
	III	●	×	×	△
	IV	×	3つのうち2つ以上●		
	V	×	3つのうち1つ●		
	VI	×	×	×	×

●:必ず有り      ×:無し  
△:有りまたは無し

3) 景観資源の平面的存在状況とシーン景観での視認状況との関係性の把握

景観資源のタイプは、旧城下町における主要な歴史的資源と考えられるA「建物（伝統的意匠を残した住宅、伝統的意匠を残した寺院・教会・神社）」、Aに準じて主要な要素となりうる資源B「敷地（伝統的意匠を有する壁・石垣、生垣）」、AやBとともに景観を引き立てる付加的な資源C「樹木（単木高木・街路樹、樹林・郡植）」、その他の資源D「その他（公園・緑地等、河川・湖沼・水路、文化財等）」の4つに分類した。景観資源の平面的な構成割合(%)はタイプごとの景観資源数/全景観資源数とし、シーン景観での構成割合(%)はタイプごとの景観資源が視認されたシーン数/景観資源が視認されたシーン数の合計として算出した。

表-2に構成割合の算出結果を示す。シーン景観での構成割合をみると、建物の割合が比較的大きく、街路空間から最も視認されることが読み取れる。次いで、敷地や樹木の割合が大きく、その他の要素の割合は比較的小さかった。平面的な構成割合と比較すると、樹木は平面とシーンで構成割合が同程度であるのに対し、建物や敷地のタイプはシーンでの構成割合が大きくなり、反対にその他のタイプはシーンでの構成割合が小さくなる傾向がみられた。

4) シーン景観の分類

景観資源タイプ(A~D)の組合せからシーン景観のタイプ(以下、シーンタイプとする)を6つに設定した(表-3)。前項にて、建物が最も視認しやすい傾向がみられたことから、まず建物が視認されるタイプ(I~III)と視認されないタイプ(IV~VI)に分類した。Iは建物のほかに敷地と樹木の要素も同時に視認されるタイプ、IIは敷地と樹木の要素のどちらかが同時に視認されるタイプ、IIIは敷地と樹木の要素のどちらも欠けるタイプとした。IVは建物が欠けて敷地、樹木、その他のうち2つ以上が視認される

タイプ、Vは建物が欠けて敷地、樹木、その他のうち1つが視認されるタイプ、VIは景観資源が全く視認されないタイプに設定した。

(4) 重点エリアの抽出

1) 路線毎のシーンタイプの構成割合の把握

各路線での主体となるシーンタイプを設定するため、路線毎のシーンタイプの構成割合を把握した(表-4)。屋敷地域の路線(①~⑥)では、タイプIやIIのほか、IV~VIも一定の割合を占めていた。町屋地域の路線(⑦~⑩)では、タイプIIIに加え、VやVIの割合も大きかった。寺町地域の路線(⑪~⑬)では、I~VIすべてのタイプが一定の割合を占めていた。また、建物がシーン景観における視認の主要な対象であることから、建物が視認されるシーン景観のタイプ(I~III)の構成割合に限って着目すると、屋敷地域の路線(①~⑥)はタイプIあるいはIIの割合が比較的大きい傾向が読み取れる。一方、町屋地域の路線(⑦~⑩)はタイプIIIの割合が大きく、寺町地域の路線(⑪~⑬)はI~IIIのいずれのタイプも相当の割合を有する傾向がみられた。

2) 路線毎のシーンタイプの出現からみた重点エリアの抽出

前項までの結果より、路線ごとにシーンタイプの出現から景観形成における重点エリアを抽出した。重点エリアの範囲の設定方法については、地域区分毎に主体となるシーンタイプを設定し、そのタイプがa方向とb方向の双方に存在する地点を中心として、片側方向に連続する区間とした。屋敷地域の路線(①~⑥)では、建物が視認されるシーン景観のタイプ(I~III)の中でIやIIの割合が大きいことから、タイプIおよびIIを主体となるシーンタイプに設定した。町屋地域の路線(⑦~⑩)では、タイプIIIの割合が大きいことからIIIに着目し、IやIIも主体となるシーンタイプに加えた。寺町地域の路線(⑪~⑬)では、タイプI~IIIのいずれのタイプも相当の割合を有することから、I~IIIを主体となるシーンタイプとした。

路線②、⑦、⑩を例に挙げ、重点エリアの設定結果を表-5に示す。路線②は、シーンNo.12~14の間で双方向にタイプIやIIがあり、ここを中心としてNo.15~17の間で片側方向にタイプIが続いている(重点エリア②)。路線⑦は、まずシーンNo.8で双方向にタイプIIIがあり、ここを基点にNo.9まで片側方向にタイプIIIが続いている。また、シーンNo.13、15~16、18~20、22で双方向にタイプIIIがあり、これらを中心としてNo.11~23の間で片側方向にタイプIIIが連続する。以上の2エリア(No.8~9およびNo.11~23)は原則上は別の重点エリアとなるが、1区間(15m)しか間が空いていないことに加え、ほぼ同質の景観であることから、一つの重点エリアと見なした(重点エリア⑥)。さらに、シーンNo.31~32で双方向にタイプI~IIIのいずれかがあり、ここを中心としてNo.29~34の間で片側方向にもタイプI~IIIのいずれかが連続している(重点エリア⑦)。路線⑩は、シーン

表-4 路線毎のシーンタイプの構成割合

路線	a方向						b方向						1方向のシーン数 合計
	シーンタイプの構成割合(%)						シーンタイプの構成割合(%)						
	I	II	III	IV	V	VI	I	II	III	IV	V	VI	
①	21	50	0	14	14	0	21	0	0	79	0	0	14
②	0	32	0	4	32	32	24	0	0	12	60	4	25
③	38	0	15	15	31	0	23	62	0	0	8	8	13
④	8	42	0	17	33	0	17	58	0	0	0	25	12
⑤	0	0	0	0	80	20	0	20	0	0	70	10	10
⑥	0	13	0	0	53	33	47	0	27	20	7	0	15
⑦	2	5	38	0	14	40	2	7	29	0	10	52	42
⑧	0	0	24	0	8	68	0	27	5	3	38	27	37
⑨	4	0	36	0	21	39	0	0	29	0	21	50	28
⑩	0	0	46	0	4	50	0	0	50	0	8	42	24
⑪	20	30	10	0	0	40	0	40	20	0	5	35	20
⑫	0	0	9	13	9	70	0	0	17	13	26	43	23
⑬	0	36	36	0	9	18	0	18	36	0	9	36	11

表-5 路線②, ⑦, ⑩における重点エリアの設定結果

路線②		シーンNo.																										
a 方向	景観資源	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		
	景観資源	A					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	景観資源	B					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	景観資源	C					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	景観資源	D					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
道路	シーンタイプ	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	VI	
	幅員																											
	勾配																											
	曲線																											
b 方向	景観資源	A																										
	景観資源	B																										
	景観資源	C																										
	景観資源	D																										
	道路	シーンタイプ	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V
	幅員																											
	勾配																											
	曲線																											

重点エリア②

路線⑩		シーンNo.																				
a 方向	景観資源	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
	景観資源	A	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	景観資源	B	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	景観資源	C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	景観資源	D	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
道路	シーンタイプ	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	
	幅員																					
	勾配																					
	曲線																					
b 方向	景観資源	A	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	景観資源	B	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	景観資源	C	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	景観資源	D	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	道路	シーンタイプ	VI																			
	幅員																					
	勾配																					
	曲線																					

重点エリア⑩

路線⑦		シーンNo.																																																
a 方向	景観資源	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42							
	景観資源	A																																																
	景観資源	B																																																
	景観資源	C																																																
	景観資源	D																																																
道路	シーンタイプ	V	V	VI																																														
	幅員																																																	
	勾配																																																	
	曲線																																																	
b 方向	景観資源	A																																																
	景観資源	B																																																
	景観資源	C																																																
	景観資源	D																																																
	道路	シーンタイプ	VI																																															
	幅員																																																	
	勾配																																																	
	曲線																																																	

重点エリア⑦

- 【景観資源】 ● 有
- 【勾配】 ■ 有
- 【曲線】 ■ 有
- 【幅員】 □ 4m未満
- 4m以上6m未満
- 6m以上8m未満

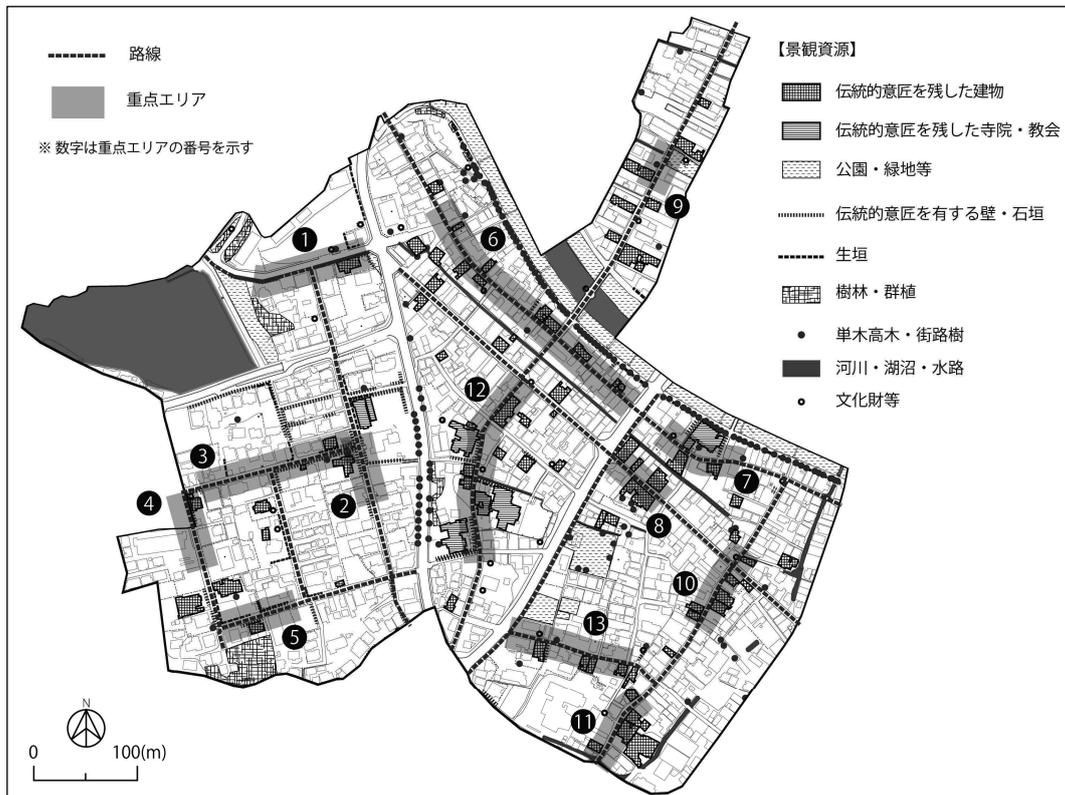


図-3 対象地内の重点エリアの位置

No. 2～5, 7～12の間で双方向にタイプⅠ～Ⅲがあり, これらを中心として No.1～14 の間で片側方向にもタイプⅠ～Ⅱが続いている(重点エリア⑫)。以上より, 対象地内で13箇所の重点エリアが抽出された(図-3)。なお, 路線⑤と⑫ではタイプⅠ～Ⅲが連続しなかったことから, 重点エリアは抽出されなかった。

### 3) 重点エリアのシーケンス景観の特徴把握

上記のように抽出した, 各路線の重点エリアにおける道路特性や景観資源から捉えたシーン景観が連続するシーケンス景観の特徴を下記に述べる。なお, 各重点エリアの典型的なシーン景観の写真を表-6に示した。

重点エリア①のa方向については, 道路幅員は4m以上6m未満で, 下り坂の曲線から勾配のない直線に変化する。下り坂の曲線部では, 遠景に地区を代表する伝統的意匠を残す建物(九鬼家住宅)があり, 近景に住宅の生垣が見える。勾配のない直線部では, 視界の大部分を九鬼家住宅が占め, 石垣や水路のほか, 周辺住宅の生垣や単木も見える。b方向については, 道路が勾配のない直線から上り坂の曲線に変化する。勾配のない直線部では, 視界の大部分を九鬼家住宅が占め, 石垣や水路, 周辺住宅の生垣や単木が見え, 遠景要素として法面がシーン中央のアイストップになる。上り坂の曲線部へ向かうにつれ, 法面や樹林等の自然的な景観資源が目に入る。

重点エリア②のa方向については, 幅員が6m以上8m未満の平坦な直線道路で, 伝統的意匠の住宅や壁が連続して見える。b方向は, 伝統的意匠を残す教会や壁, 生垣, 庭の単木が見え, 遠景要素として樹林がシーン中央のアイストップになる。

重点エリア③のa方向は, 幅員が概ね6m以上8m未満の平坦な直線道路で, 伝統的意匠を残す住宅や白壁, 生垣, 庭の単木が連続して見える。b方向の見え方は, a方向と同じである。

重点エリア④のa方向は, 幅員が6m以上8m未満の平坦な直線道路で, 伝統的意匠を残す住宅や壁が見え, 遠景要素として樹林がシーン中央のアイストップになる。b方向については, 道路特性はa方向と同じで, 伝統的意匠を残す住宅と壁が連続して見える。

重点エリア⑤のa方向は, 幅員が6m以上8m未満の平坦な直線道路で, 伝統的意匠を残す住宅, 壁, 生垣が連続して見える。b方向の見え方は, a方向と同じである。

重点エリア⑥のa方向は, 幅員が概ね4m以上6m未満の平坦な直線道路で, 伝統的意匠を残す住宅が連続して見える。b方向の見え方は, a方向と同じである。

重点エリア⑦のa方向は, 幅員が概ね4m以上6m未満の平坦な道路で, 線形が緩やかな曲線となっていることから, 伝統的意匠を残す住宅や寺院の壁が目に入り, 住宅敷地内の単木がシーン中央のアイストップになる。b方向の道路特性はa方向と同じで, 伝統的意匠を残す寺院や壁が目に入り, 伝統的意匠を残す住宅がシーン中央のアイストップになる。

重点エリア⑧のa方向は, 幅員が4m以上6m未満の平坦な直線道路で, 伝統的意匠を残す住宅が連続して見える。b方向の道路特性はa方向と同じで, 伝統的意匠を残す住宅が連続して見え, 遠景のシーン中央に樹林も見える。

重点エリア⑨のa方向は, 幅員が概ね4m以上6m未満の平坦な直線道路で, 伝統的意匠を残す住宅が連続して見える。b方向も, 伝統的意匠を残す住宅が連続して見えるほか, 一部の区間で公園が目に入る。

重点エリア⑩のa方向は, 幅員が4m以上6m未満の平坦な直線道路で, 伝統的意匠を残す住宅が連続して見える。b方向の見え方は, a方向と同じである。

重点エリア⑪のa方向は, 幅員が概ね4m以上6m未満の平坦な道路で, 線形が緩やかな曲線となっていることから, 伝統的意

表-6 各重点エリアの典型的なシーン景観

重点 エリア	路線 番号	シーン例	
		a方向	b方向
①	①		
②	②		
③	③		
④	④		
⑤	⑤		
⑥	⑥		
⑦	⑦		
⑧	⑧		
⑨	⑨		
⑩	⑩		
⑪	⑪		
⑫	⑫		
⑬	⑬		

匠を残す住宅が路線沿いに見えるとともに、シーン中央のアイストップになる。b方向の見え方は、a方向と同じである。

重点エリア⑫のa方向は、幅員が4m未満から4m以上6m未満へと概ね変化する平坦な道路で、線形は直線→曲線→直線→曲線へと緩やかに移り変わる。始めの方の区間では道路沿いに伝統的意匠を残す住宅が見え、遠景要素として寺院と白壁、その背後の樹林がシーン中央のアイストップになる。先の区間に進むと、伝統的意匠を残す住宅や寺院、白壁が道路沿いに見えるようになる。b方向は、幅員と道路線形がa方向とは逆に変化する。始めの方の区間では道路沿いに伝統的意匠を残す寺院や壁が見え、遠景要素として伝統的意匠を残す住宅がシーン中央のアイストップになる。先の区間に進むと、伝統的意匠を残す住宅や寺院、白壁が道路沿いに見えるようになる。

重点エリア⑬のa方向は、幅員が4m未満の平坦な道路で、線形が直線から緩やかな曲線へと変化する。直線部では道路沿いに伝統的意匠を残す住宅や庭の単木が連続して見え、曲線部でも道路沿いに伝統的意匠を残す住宅が見える。b方向の見え方は、a方向と同じである。

#### 4. 考察

以上の結果をふまえ、複数の景観資源の街路からの視認状況をもとにした、景観形成における重点エリアの抽出方法の有効性について考察する。

まず、景観資源のタイプ別に構成割合を平面とシーンで比較した結果、建物や敷地の景観資源はシーンでの構成割合が大きくなり、街路においてより視認される要素であることがうかがえた。このことから、景観をシーンで扱うことにより、平面的な分布だけでは捉えられない景観資源の見え方を把握することができるといえる。

次に、重点エリアのシークエンス景観の特徴をみると、道路の特性が景観資源の見え方に大きく影響することが読み取れた。特に道路線形が曲線になっている区間では、景観資源がシーン中央部のアイストップになり、印象的な景観が形成されている。また、道路勾配も景観資源に視点を誘引する重要な働きを有していると考えられる。このように、道路特性が変化することによって景観資源の視認も変化し、特徴のあるシークエンス景観が形成されている。

さらに、地域区分ごとに重点エリアのシークエンス景観をみると、屋敷地域では曲線や勾配がもたらす特徴的なシークエンス景観（重点エリア①）に加え、見通しの良い広幅員の平坦な直線道路に伝統的な意匠を残す住宅、壁、生垣が連続して見ることが特徴的であるといえる（重点エリア②～⑤）。これらの特徴から、景観形成の方向性としては、重点エリア①では九鬼家住宅に配慮した緑のゆたかさと歴史性を感じられる場所となるよう、建物の屋根の色彩への配慮や生垣の設置などに加え、アイストップとなる緑の維持管理も重要と考えられる。また、重点エリア②～⑤では、敷際に伝統的な意匠を残す壁や生垣を設けることで、風格ある住宅地景観を形成する方向性が考えられる。町屋地域では、道路の曲線による特徴的なシークエンス景観（重点エリア⑦、⑪）のほか、平坦な直線道路に伝統的な意匠を残す町屋が連なる景観が印象的である（重点エリア⑥、⑧～⑩）。これらの特徴を踏まえ、アイストップとなる町屋や敷地内の単木の保全、町屋の連続性に配慮した道路沿いの建物の意匠や色彩の整備などが重要になると考えられる。寺町地域では、平坦な細街路が所々で曲線となることにより、寺院や白壁、伝統的な意匠を残す町屋がアイストップとなるなど、印象的な景観が創出されている（重点エリア⑫、⑬）。これらを踏まえ、アイストップとなる建物等を保全するとともに、敷際に白壁や庭木を設置するなどの景観の連続性への

配慮が景観形成の方向性として挙げられる。

以上のように、旧城下町の地域区分毎に重点エリアを抽出し、道路特性と景観資源の見え方を読み取ることにより、景観形成に優先的に取り組むべき空間が把握されるとともに、地域ごとの景観形成の指針の根拠や手がかりを提示することができる。また、重点エリアを規範として周辺の景観を整備していくことも期待される。

謝辞：本研究を進めるにあたり、三田市地域振興部都市政策室都市計画課の担当者の皆様に大変お世話になりました。ここに記して、謝意を表します。

#### 引用文献

- 1) 高橋友樹・森田亜友美・室田昌子（2010）：景観資源の分類に基づく実態と課題に関する研究－東京都23区の景観資源の分類調査を通して－：都市計画報告集8, 197-200
- 2) 齋藤晋佑・今村洋一・岡崎篤行（2011）：景観法に基づく景観重要建造物の全国的運用実態と課題：日本建築学会技術報告集17(35), 345-348
- 3) 宋曉晶・池田孝之・安里直美（2010）：重点地区景観形成基準の策定プロセスとそこにおける住民と行政との調整について：日本建築学会計画系論文集75(648), 411-418
- 4) 土佐道子・澤木昌典・柴田祐（2009）：神戸市市街地における山並み眺望景観とシークエンスからみた景観構造に関する研究：ランドスケープ研究72(5), 855-858
- 5) 小泉萌・石川幹子（2007）：浜離宮恩賜庭園の大泉水及び横堀における景観構造に関する研究：ランドスケープ研究70(5), 497-500
- 6) 加藤祐介・吉田博宜（2004）：史跡岡城跡におけるシークエンス景観の分析：ランドスケープ研究67(5), 637-642
- 7) 船越徹・積田洋・清水美佐子（1988）：参道空間の分節と空間構成要素の分析（分節点分析・物理量分析）－参道空間の研究（その1）－：日本建築学会計画系論文報告集384, 53-62
- 8) 三田市既成市街地景観計画：三田市都市計画課ホームページ <[http://www.city.sanda.lg.jp/toshi/documents/planning\\_document\\_lpboa.pdf](http://www.city.sanda.lg.jp/toshi/documents/planning_document_lpboa.pdf)>, 2016.3.31更新, 2016.8.31参照
- 9) 大平和弘・上田萌子・藤本真里・田原直樹・赤澤宏樹（2016）：兵庫県三田市旧城下町の景観形成に向けた景観資源の分布と居住者の認識との関係：ランドスケープ研究79(5), 671-676
- 10) 農耕と園芸（編）（1979）：植木⑧土の造園デザイン：誠文堂新光社, 206-208
- 11) アーバンデザイン研究体（編）（1985）：アーバンデザイン－軌跡と実践手法：株式会社彰国社, 37